

心豊かでかしこくたくましい嘉年っ子の育成

～しらべる つかむ ひろげる かねっこ～

山口市立嘉年小学校愛育会

1 学校地域の概要

PTA 会長：城 代 剛

学校長：徳 光 英 夫

児童数：7 名

家庭数：6 世帯

教職員数：7 名

所在地：〒759-1601

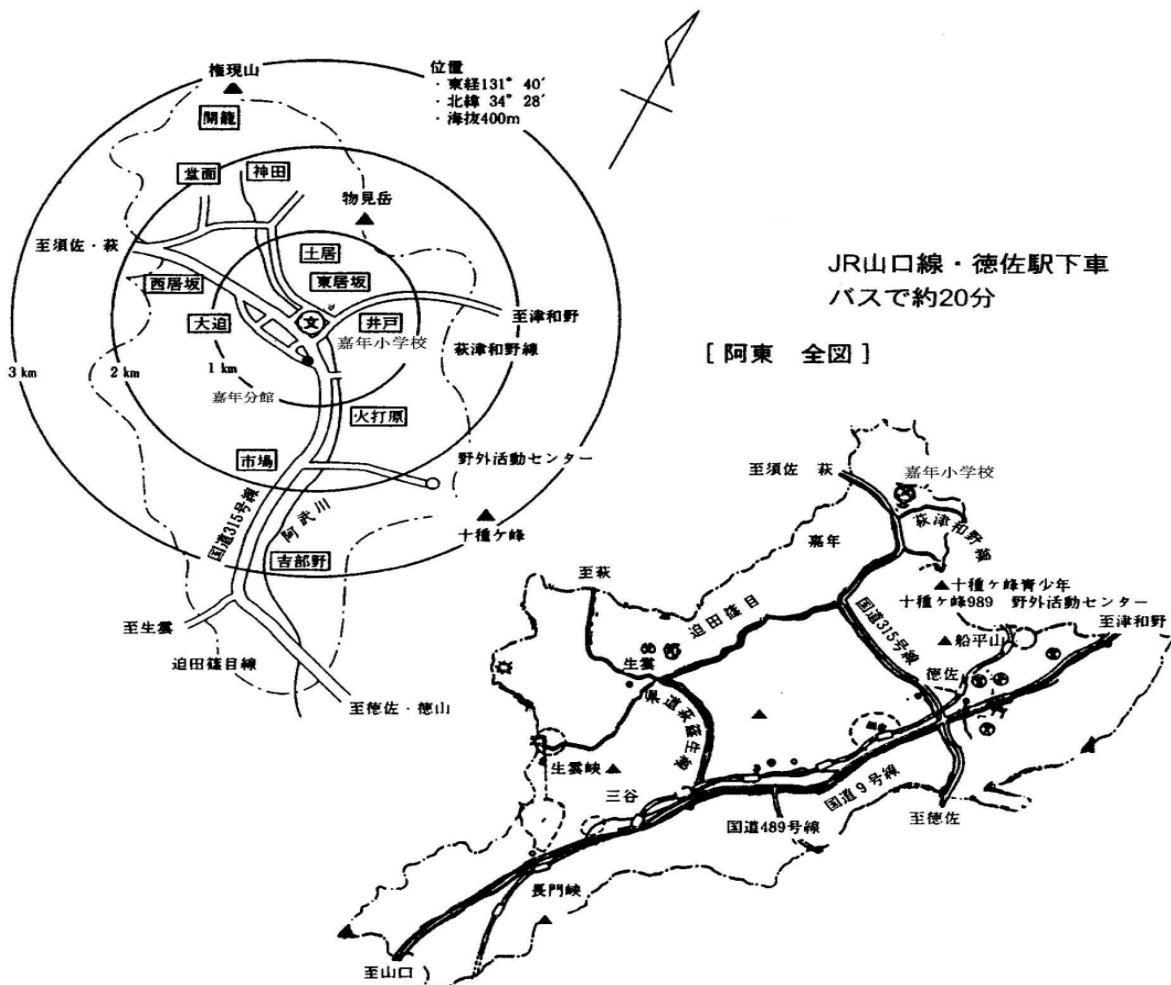
山口市阿東嘉年上 3436 番地

TEL 083-958-0004 fax083-958-0084

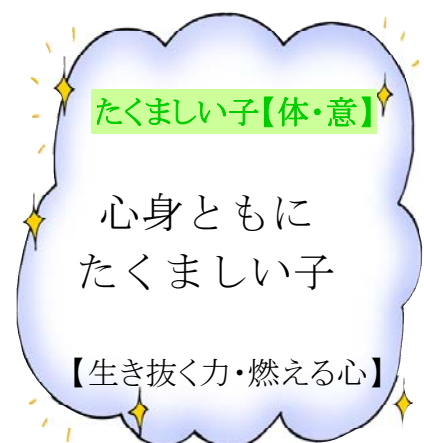
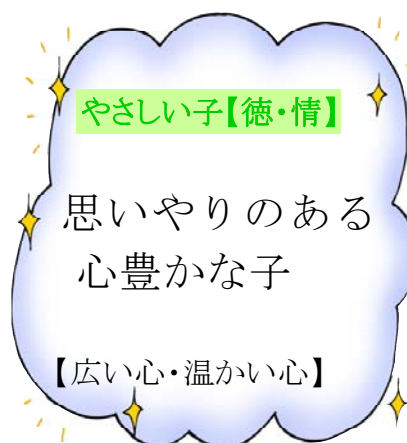
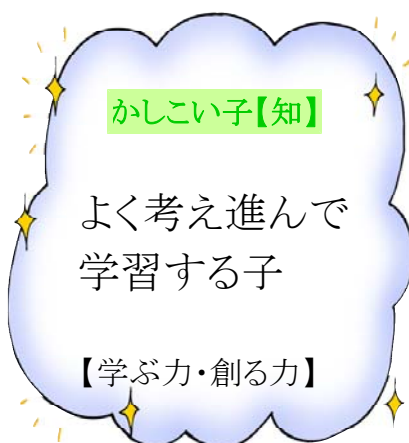
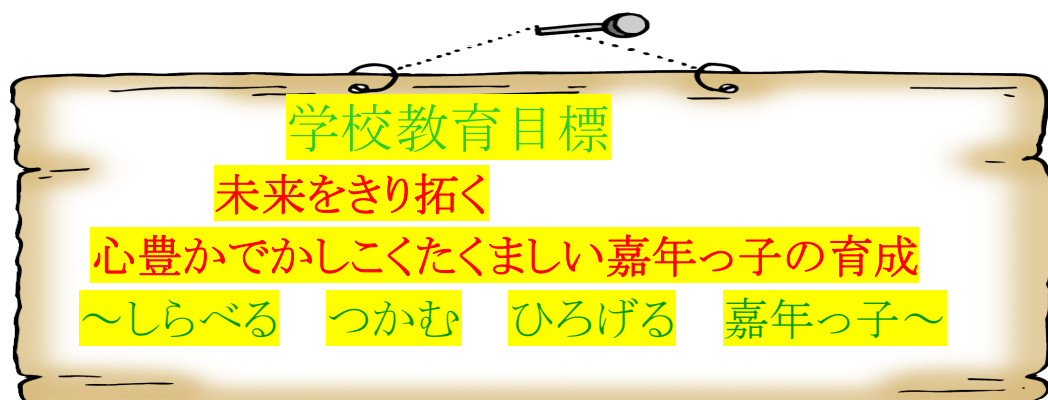
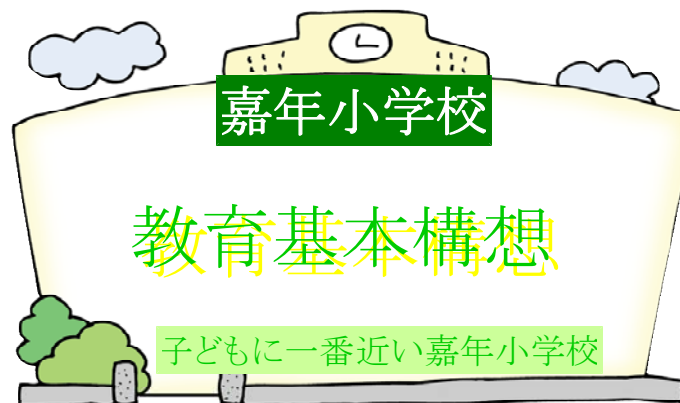
E-mail：kane-es@c-able.ne.jp



(1) 地域の特徴



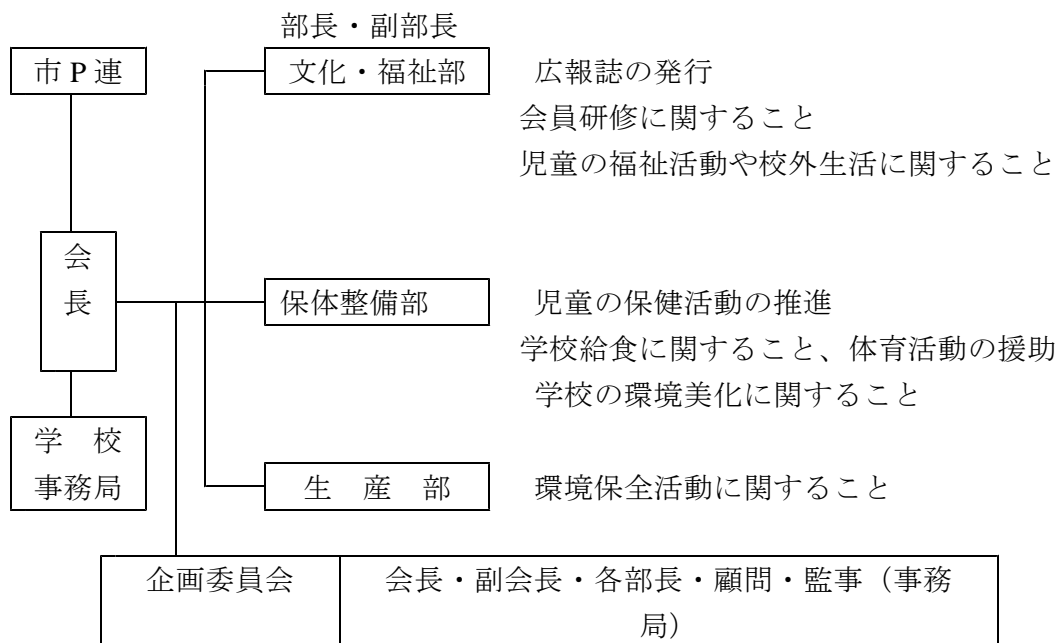
- ・阿武川流域に位置し、四方を十種ヶ峰・物見ヶ岳・権現山・京長岳などに囲まれている。嘉年の地名の由来は、阿武川の水上川の源を意味する河根（かね）にちなむという。
- ・夏は涼しく冬は寒冷で積雪も多い。
- ・地域は、世帯数245世帯、人口511人【平成24年4月現在】、高齢化が進んでいる。米作りを主産業に、阿東牛の飼育、とまと・ほうれん草などの野菜作りが行われているが、他地域へ通勤するなど兼業農家も多い。
- ・歴史と伝統を持つ地域であり、須賀社の厄神舞などの文化財も多い。嘉年八幡宮の秋の例祭には、神楽が奉納されるなどして憩いの場ともなる。
- ・地域の人々は、自然に順応してきた素朴さがある。教育への関心も高く、地域をあげての温かい協力を得ることができる。



経営方針

- ① **確かな学力を定着させる学習指導の展開**
 ◎ゆとりをもって学習する中で基礎・基本を確実に身につけさせ、わかる授業を展開します。
- ② **開かれた学校づくりの推進**
 ◎コミュニティ・スクール推進構想に基づいた、誰もが誇りのもてる学校づくりを進めます。
- ③ **交流学习を通して温かく人と交流**
 ◎児童や地域の実態を十分に踏まえ、教職員の英知と創意を結集し、活力に満ちた嘉年小教育を推進します。

2 愛育会（PTA）の組織図



2 事業計画

| 月 | 事業計画 | 担当部 |
|---|---|-----------------------------|
| 4 | ・愛育会総会・専門部会 ・愛育会企画委員会① | 事務局 事務局 |
| 5 | ・ケナフ畑耕作 ・除草、草刈り ・プール清掃 ・市PTA連合会総会（校長・会長・副会長） | 生産部 整美部 保体部 事務局・会長 |
| 6 | ・愛育会企画委員会②・専門部会 ・愛育会会報「かつ山」第1号発刊 | 事務局 文化・福祉部 |

| | | |
|----|---|--|
| | ・親子ふれあい活動 ・徳佐・嘉年校園連絡協議会 | 保体部 事務局・会長 |
| 7 | ・学校保健委員会（愛育会員） ・愛育会企画委員会③ ・プール監視計画と実施 ・資源ごみ回収 ・ケナフ畑の囲い作り ・山口市PTA研修大会 | 保体部 事務局 保体部 文化・福祉部 生産部 事務局・会長 |
| 8 | ・学校美化作業・除草剤散布 | 整美部 |
| 9 | ・愛育会企画委員会④ | 事務局 |
| 10 | ・運動会協力 ・愛育会企画委員会⑤ ・山口市PTA連合会定例委員会 | 保体部 事務局 事務局・会長 |
| 11 | ・ケナフ煮込み 紙すき大会 ・山口市PTA連合会親睦ソフトボール大会 | 生産部 愛育会 |
| 12 | ・持久走大会協力 | 保体部 |
| 2 | ・山口市PTA連合会定例委員会 | 事務局・会長 |
| 3 | ・愛育会企画委員会⑥ ・愛育会会報「かつ山」第2号発刊 | 事務局 文化・福祉部 |

3 研究主題について

少子高齢化については、近年様々な視点で取り上げられることが多いが、特に本校校区では急速にそれが進行しており、見方を変えると危機的な状況にあるともいえる。全校児童7名という数字にそれが表れており、今こそ、特色ある学校づくりに向けて、教職員と保護者、地域が一丸となって児童一人ひとりにきめ細かい学びの場を提供することが求められる。

視野を広げると、児童を取り巻く環境は、グローバル化やインターネットの普及等による高度情報化の波が押し寄せており、多様な考え方や文化に柔軟に対応する力が求められている。

まずは、学校と地域が一体となって、子どもたちの身近な環境に関心を払いながら、ふるさとへの誇りや愛着を育むことが重要だと考える。

そこで、「子どもに一番近い嘉年小学校」をキーワードに、時代を担う子どもたちの「生きる力の育成」に重点を置いて、研究を深めることとした。

4 活動内容

ケナフを使った卒業書証づくりと情島小学校との夏・冬宿泊交流

- ・ケナフ栽培と卒業証書づくり・・・愛育会 生産部
- ・情島小学校との夏・冬宿泊交流・・・愛育会 企画委員会

嘉年小学校は、小規模だからこそ実行できる、つまり、通常ならデメリットになるところを逆にメリットととらえ、さまざまな活動に取り組んでいる。その良さを最大に生かしているのがケナフの栽培と周防大島町立情島小学校との夏と冬の交流学习があげられる。

嘉年小学校は、学校と保護者が密接に連携して、これまでいろいろな行事に取り組んでおり、その中で保護者が子どもと一緒に成長しながら多くのことを学んでいる。

指定を受けることにより、たくましく生き抜く力を研究の中心主題としながら、同時に、学校と地域が一体となったPTA活動をこれまで以上に積極的に推進したいと考えている。

(1) ケナフ栽培と卒業証書づくり・・・愛育会 生産部

☆愛育会の目標☆

ケナフ栽培と卒業証書づくりをとおして、児童がたくましく生きる力を育む

【サブテーマ】

今年度は、業者委託の部分をやめて、栽培から紙すきまで完全に手作りすることをとおして、児童の生きる力を育む。

ケナフとは？

ケナフは繊維を目的として、インド、バングラデシュ、タイ、アフリカの一部、ヨーロッパの東南部などで古くから栽培されてきた。茎からは2種類の繊維が採れ、外側の層からは目の粗いものが、中心部分からは目の細かいものが得られる。栽培品種は約200種ほどが知られ、黄麻（コウマ、ジュート）の代用繊維としても多く使用されている。

成長が速く、収穫できる繊維も多いため、木材パルプの代替資源として2000年頃から注目を浴びるようになった。「木材使用量を低減し、森林伐採が防止でき、環境によい」と評価され、日本各地の小中学校で総合的な学習の時間における環境学習として栽培されているほか、ケナフ製の名刺やナプキンが使用されるようになった。（ウィキペディアからの引用）

育てたケナフで、卒業証書を作るんだ！

阿東町嘉年地区で初めてケナフが栽培されたのは平成7年6月。当時の町立嘉年小学校の教員が環境教育の教材として課外活動に取り入れたのがきっかけだった。

試行錯誤を経て和紙づくりに取り組み、卒業証書などもケナフで作るようになると、関心をもつ保護者も増えた。

さあ、ケナフを育てよう！

〈種まき〉 2013.5.15

- ・全校児童で、たねまきを実施。種が小さいので苦勞していますが、なれると簡単です。一つ



【みんなで協力して種まき】



のポットに、3～4粒をまくとよいようです。



<定植> 2013.7.4 (木)

【城代会長 あいさつ】

1週間もすると、小さくかわいい芽が出てきました。
児童が交代で、水やりをしたり、観察を続けて大事に育てました。
定植は、保護者と一緒に、根を痛めないように注意しながら、て

いねいに行いました。

<刈り取り> 2013.10.10

・7月28日「これまで経験したことのない」大雨により、山口市、萩市、阿武町で浸水や土砂災害が起り、甚大な被害が発生しました。嘉年小学校にも濁流が押し寄せ、床上約50cmまで浸水しました。幸い児童にけがはなく、関係の皆様のご努力で2学期から平常どおりの授業が再開しました。ケナフの刈り取りも無事に行うことができました。



【水害にも負けず、大きく育ちました】

☆ 紙すき ☆

11月4日は、一大イベント、紙すきの日でした。ケナフやトロロアオイを一生懸命育て、豪雨の際に倒れたケナフを救出。そして、嘉年小学校愛育会の小野村生産部長さんを中心に、ケナフを刈り取って、保護者の皆様が試行錯誤して作ったパルプ…多くの方々の知恵と努力の結晶で、6年生の卒業証書と在校生のはがきを作ることができました！味わいのある3種類の証書（おうちの方へのプレゼントも！）カラフルな飾りや季節の植物の入った個性豊かなはがき、どれもすばらしい作品になりました。

卒業証書になっちゃった！



塩素のにおいが強烈…！がんばるお父さん方に、感謝です。



【六年生の女子3人】

【トロロアオイとケナフを手でまぜます】



【なれた手つきでできました】

【5年生以下は、ハガキ作りに挑戦】



【親子で手を取りあって・・・】

今年度は、専門の業者に委託することもなく、すべて、手作業で行いました。試行錯誤の連続でしたが、事前に何度も試しの作業を行うなど、目に見えないところで、たくさんの苦勞がありました。

紙すきが無事に終わり、一安心です。

3月20日の卒業証書授与式が、盛大に行われることを祈るばかりです。

7月28日の水害により、夏の交流会は中止せざるを得なかった。情島小学校の児童や関係者の皆様には、直前まで大変な準備をされていたのに申し訳なかった。冬のスキー教室は、嘉年小学校関係者の総力をあげて、有意義な場となるよう地域の協力も得ながら取り組んだ。

☆愛育会の目標☆

情島小学校との交流をとおして、児童がたくましく生きる力を育む

【サブテーマ】

※二泊のホームステイを嘉年小学校愛育会が全面的に引き受けることにより、心豊かでたくましい嘉年っ子を育てる

水害の関係で、十種ヶ峰青少年自然の家での宿泊ができなくなり、愛育会企画委員会の話し合いで、二泊のホームステイを行うことがすぐに決まり準備を開始した。保護者の積極的で前向きな姿勢は、嘉年地域に根付いている助け合いの精神が生かされている。宿泊割り当てや児童一人ひとりに配慮することなど事前の話し合いも非常にスムーズであった。保護者がお手本となって率先垂範する姿は、子どもたちへの強いメッセージとなった。



「歩くスキー」を体験

日ごろあまり目にすることがない雪景色に満足！

雪不足のため、ゲレンデスキーはできませんでしたが、日陰になるところには、約30cmの雪が残っており、三日間歩くスキーやそり遊び、雪合戦など思い切り楽しむことができました。





「十種ヶ峰(とくさがみね)」
にちなんで、十個の種(宝
物)を発見しました。

みんなの前で大きい声で
発表しました。

十個の種見つけた！

【情島小児童から寄せられたお礼】

ホームステイでは、お世話になりました。朝ご飯を作ってくさったり、
おやつやジュースをいただいたりしました。ありがとうございました。

朝ご飯はとってもおいしかったです。

また、トランプも楽しかったです。二回して二回とも勝てたので
うれしかったです。

今回はお世話になりました。

本当にありがとうございました。

【嘉年小学校児童の作文より】

情島小のみなさんへ

暖かくなってきましたね。スキー教室は、楽しかったですね。特に私は
ホームステイが楽しかったです。一緒にご飯を食べたり、一緒にミカン
を食べたりしましたね。二日目には雪遊びをしてびしょびしょになりまし
たね。

マウンテンマウスのライブでは、とても盛り上がりおもしろかったですね。
冬の花火は、暗い夜空に打ち上がってキラキラしてすてきでしたね。
この三日間一緒に遊んでくださってありがとうございました。



【紙テープでお別れ】

楽しかった三日間でした。用意されたプログラムを無事に終了。

「夏は情島で待ってるよ！」の音が響きました。

5 成果と課題

成果

(1) ケナフ栽培と卒業証書づくり・・・愛育会 生産部

☆愛育会の目標☆

ケナフ栽培と卒業証書づくりをとおして、児童がたくましく生きる力を育む

【サブテーマ】

今年度は、業者委託の部分をやめて、栽培から紙すきまで完全に手作りすることをと、おして、児童の生きる力を育む。

ケナフのパルプ化については全くの手探りの状態で、いろいろ事前に試しながら不安が残る中、本番の日を迎えた。準備はもちろんであるが、当日の運営、片付けまで保護者がリードして積極的に動く姿が強く印象に残った。結果として、完全手作りの卒業証書ができあがった。毎年続けているので、児童も要領が分かっており、手際よく作業を進めることができた。

(2) 情島小学校との夏・冬宿泊交流・・・愛育会 企画委員会

☆愛育会の目標☆

情島小学校との交流をとおして、児童がたくましく生きる力を育む

【サブテーマ】

※二泊のホームステイを嘉年小学校愛育会が全面的に引き受けることにより、心豊かで、たくましい嘉年っ子を育てる。

7月28日の水害により、夏の交流会は中止。冬のスキー教室は、嘉年小学校関係者の総力をあげて、有意義な場となるよう地域の協力も得ながら取り組んだ。

特に、二泊ともホームステイを実施できたことは、大きい成果があがった。情島小の児童全員が、ホームステイのことが忘れられないと言っていることからそれが分かる。多くの困難や課題にもかかわらず。快く引き受けてくれた保護者の存在は、地味ながらもまさに「生きる力」のお手本となった。

課題

児童数減少と家庭数減少に伴う活動の困難さをどう克服するか

【児童数の推移】

| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 合計 |
|----------|----|----|----|----|----|----|----|
| 平成 23 年度 | 0 | 0 | 2 | 3 | 3 | 4 | 12 |
| 平成 24 年度 | 0 | 0 | 1 | 2 | 3 | 3 | 9 |
| 平成 25 年度 | 1 | 0 | 0 | 1 | 2 | 3 | 7 |
| 平成 26 年度 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 2 | 4 |
| 平成 27 年度 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 2 |
| 平成 28 年度 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |

少子高齢化が急速に進む嘉年地区では、児童数減少に如実にそれが表れている。学校現場では、一人ひとりにきめ細かい指導を心がけているが、保護者や地域の協力なしには、充実した指導ができないのは当然のことであり、対策が急がれる。特に、家庭数の減少は、愛育会活動そのものを停滞させる危険性をはらんでいる。それは、予算面ひとつとっても厳しいものがある。「子どもに一番近い嘉年小学校」を合い言葉に、これまでの行事の精選と見直しを図りながらも、残すべき行事等については、逆に力を入れたいし、また、新しいアイデアや取り組みについてもそれを積極的に取り入れるゆとりが必要であろう。

幸い、嘉年小学校保護者や嘉年地域が、嘉年小教育の推進については、協力・支援を惜しまない風土ができあがっており、これを大切にしながらさらに前向きに進めていきたいと考える。

6 おわりに

水害の復旧・復興がようやく始まったばかりの嘉年地区ではあるが、地域全体を見ると、常に協力し助け合う力強さを感じる。

本年度の研究の成果を絶やすことなく、より発展させていくことが求められる。

最後に、研究助成の支援をいただきました山口県PTA連合会に心より感謝申し上げ報告いたします。